

**義務教育9年間を見通した指導体制の在り方等に関する検討会議（第1回）における
調査研究の進め方に関する主なご意見（概要）**

- 単一小学校の教科担任制のヒアリング内容について、教師集団の背景について既存の研究成果にはなかなか見られないように思う。得意分野の教員が専科指導に当たっているか、年齢構成や教員経験年数はどうかなども含め、どのような条件・要件が整えば同一小学校内での教科担任制がうまくいくのか、ヒアリングで聞いてもらいたい。
- スナップショットでの教科担任制の効果等のエビデンスをとるのは難しいため、可能であれば、教科担任制を政策として導入する前のゼロ地点での基礎データの収集をしてもらいたい。今回の調査で分析しないまでも、事前事後のパネルデータを取り、特性の似ている自治体間で違う形態を導入しているところを比較することなどができると望ましい。
- （指導体制の在り方に係る議論の中で）短期的・長期的な制度設計の話があったが、短期的な取組においては地域特性に応じたような形態の教科担任制のパターンが出現すると思われ、いわゆる自然実験に相当するものになると思う。そこで、どの形態でどんな効果が誰にあるのか、といったことを、可能な限り地域特性が似ている、もしくは学力達成のゼロ地点のデータが似ているところで検証できるとよい。

※上記内容は、委員の了解を取っておらず、事務局がまとめたものである。